

## 2. 認知症の予防と対応

2-1

### 正しく教えて 認知症

老化によっても「もの忘れ」は進みますが、認知症の「もの忘れ」とは次のように違いがあります。



老化によるもの忘れ	認知症のもの忘れ
体験の一部を忘れる	体験の全体を忘れる
記憶障害のみがみられる (人の名前を思い出せない、 度忘れが目立つ)	判断や実行機能の障害がある (料理や家事などの段取りが わからなくなる)
もの忘れを自覚している	もの忘れの自覚に乏しい
探し物も努力して見つけ ようとする	探し物も誰かが盗ったと 言うことがある
見当識障害はみられない ※1	見当識障害がみられる ※1
作話はみられない ※2	しばしば作話がみられる ※2
日常生活に支障はない	日常生活に支障をきたす
きわめて徐々にしか進行しない	進行性である

※1 見当識障害：時間や日付、場所などがわからなくなること

※2 作話：現実には存在しないことをあたかも存在しているかの  
ように話すこと

認知症の原因はいろいろありますが、高齢者ではアルツハイマー型が約半数、脳血管型が2～3割を占めています。  
80歳を超えるとアルツハイマー型が増加します。

アルツハイマー型認知症	脳血管型認知症
βアミロイド蛋白の細胞内蓄積により、脳の神経細胞が破壊され、認知症になるもの	脳梗塞や脳出血の結果、脳の神経細胞が破壊され、認知症になるもの
全般的に能力が低下	まだら認知症 (部分的に能力が低下)
手足の麻痺やしびれが伴うことがある	手足の麻痺やしびれが伴うことが多い

お問合せ先

西保健所 保健予防課

TEL.(052)523-4619 FAX.(052)531-2000